りょうかわ

学校だより　令和2年2月28日号　新潟市立両川小学校

子どもたちの生命・安全に勝るものなし

校長　　中村　雅芳

新型コロナウィルスの脅威から子どもたちの生命・安全を守るために，昨夕，安倍首相から発表があった通り３月２日（月）から４月５日（日）まで休校といたします。

先日「現時点では，新潟県内に罹患者はいません。校内でも，風邪やインフルエンザの罹患者は少なく，落ち着いた状態です。したがって，卒業式，入学式を含めて，教育活動は予定通り行っていきます」と，お便りでお知らせしたばかりでしたが，これを撤回せざるを得なくなったことを残念に思います。３月２４日（火）の卒業式に向けて６年生はもちろんのこと，全校が一つになって取り組んでいた最中だったこと，１年間の学習をまとめていた最中だったことを考えると，子どもたちにも申し訳ない気持ちで一杯です。どのように学級を閉じるのか，残りの１６日間を計画的に進めていた学級担任にとっても，突然のシャットダウンに戸惑うばかりです。

しかしながら，子どもたちの生命・安全に勝るものはありません。クラスター（集団感染）を避けるための最善策として，このような決定がなされたことを前向きに捉えたい。「最悪を想定して最善を尽くす」ことが，危機回避の鉄則です。

９年前，未曾有の東日本大震災を経験した私たち教職員の心には「子どもの生命が最優先」という教訓が染み込んでいます。あのとき，多くの中学校では卒業式の前日準備を終え，明日への緊張と嬉しさを抱えて子どもたちは帰宅していました。小学校では，５時間目の授業が終わり，帰り支度をしていた最中だったはずです。子どもたちのそんな幸せな日常を，あの地震が，津波が，突然奪っていきました。

卒業生代表の言葉　※気仙沼市立階上（ハシガミ）中学校卒業式における答辞

本日は未曽有の大震災の傷も癒えないさなか，私たちのために卒業式を挙行していただき，ありがとうございます。ちょうど１０日前の３月１２日。春を思わせる暖かな日でした。私たちは，そのキラキラ光る日差しの中を，希望に胸を膨らませ，通い慣れたこの学舎を，５７名揃って巣立つはずでした。

前日の１１日。一足早く渡された思い出のたくさん詰まったアルバムを開き，１０数時間後の卒業式に思いを馳せた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らずに‥。

階上中学校といえば「防災教育」といわれ，内外から高く評価され，十分な訓練もしていた私たちでした。しかし，自然の猛威の前には，人間の力はあまりにも無力で，私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには，むごすぎるものでした。つらくて，悔しくてたまりません。

時計の針は１４時４６分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として，顔を上げ，常に思いやりの心を持ち，強く，正しく，たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし，苦境にあっても，天を恨まず，運命に耐え，助け合って生きていくことが，これからの私たちの使命です。

私たちは今，それぞれの新しい人生の一歩を踏み出します。どこにいても，何をしていようとも，この地で，仲間と共有した時を忘れず，宝物として生きていきます。

後輩の皆さん，階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が，いかに貴重なものかを考え，いとおしんで過ごしてください。先生方，親身のご指導，ありがとうございました。先生方が，いかに私たちを思ってくださっていたか，今になってよく分かります。地域の皆さん，これまで様々なご支援をいただき，ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

お父さん，お母さん，家族の皆さん，これから私たちが歩んでいく姿を見守っていてください。必ず，よき社会人になります。

私は，この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に，本当に，本当に，ありがとうございました。

平成２３年３月２２日　　第６４回卒業生代表　梶原 裕太

避難所となった階上中学校体育館にて，被災者が大勢見守る中，卒業式は１０日遅れで挙行されました。当初，生徒会長の梶原さんは逡巡したと言います。それは震災からまだ間もなく，被災者が大勢いる中，それどころではないだろうという周囲への配慮から。もう一つは彼の相棒であった生徒副会長が震災で亡くなったという深い悲しみから。しかし，「そういうときだからこそ，卒業式をやるべきなんだ！」と教師たちは彼を後押ししたそうです。

この答辞を毎年３月１１日に印刷し，教職員に配付してきました。この悲劇を絶対に忘れないためです。こんなに悲しい卒業式は，これが最後になるべきです。子どもの生命に勝るものはありません。

休校措置により，ご家庭には多大なるご迷惑をおかけいたします。共働きのご家庭には特にご心配なことも多いことと思います。休校中の家庭での過ごし方について，本日，学級担任が子どもたちに説明，指導いたしました。関連する数種類の文書も配付しましたので，ご家庭でもご確認，ご指導いただければ幸いです。不安なこと，困ったことがあれば，遠慮なく学校までご相談ください。

梶原裕太さんは岩手県の高等専門学校で５年間，土木工学を学び，現在は地元に戻って地盤改良の仕事に取り組んでいるそうです。「地面を丈夫にしてるんだぜ，って同級生に胸を張って言えるかな‥」と数年前のテレビで，笑顔で答えていました。